



地震被害推定をより正確に行うための 構造種別や層数を考慮に入れた建物内人口データの構築

新井健介¹⁾, 境有紀²⁾

- 1) 学生会員 筑波大学大学院システム情報工学研究科, 大学院生
e-mail: e0511266@edu.esys.tsukuba.ac.jp
- 2) 正会員 筑波大学大学院システム情報工学研究科, 教授 工博
e-mail: sakai@kz.tsukuba.ac.jp

要 約

地震被害推定をより正確に行うため, 建物ベースではなく人口ベースで被害推定を行えるように, 被害建物内人口で評価する方法を提案した. そのために必要な建物内人口を, 国勢調査人口データより推定する方法について検討した. 具体的には, 建物種別を木造, 10階以下の中低層非木造, 11階以上の高層非木造の3つに分類し, 3万個以上ある関東圏の1kmメッシュから人口の大小, 夜間人口と昼間人口の比を万遍なく網羅するように20個の1kmメッシュを選んで調査を行い, そのデータを基に, それぞれの建物内人口を国勢調査などの人口データから推定する方法を構築した. その結果, いずれの場合も高い精度で人口データから建物内人口を推定できた.

キーワード: 地震被害推定, 建物内人口, 人口データ, 国勢調査, 地域メッシュ統計